

『スポーツとジェンダー研究』 編集規定

2002年10月
2003年7月改訂
2005年11月改訂
2014年6月改訂
2016年6月改訂
2019年6月改訂
2025年7月改訂

1. 本誌は、日本スポーツとジェンダー学会の機関誌として、原則として毎年1回発行する。
2. 本誌の目的は、スポーツとジェンダーにおける学問的理論や知識の発展に寄与すると共に、スポーツとジェンダー学における研究を促進することにある。
3. 本誌は、原則として本会会員による未発表の投稿原稿（総説、原著論文、研究ノート）、学会大会登壇者論文等、海外文献紹介、書評、学会動向などを編集掲載する。
4. 投稿原稿は、以下の3種類とする。
 - 1) 総説：特定の分野やテーマに関する先行研究を集め、その分野やテーマの概説・研究動向・展望をしたもの。
 - 2) 原著論文：独創性・新規性のある知見を提示すると認められる論文。
 - 3) 研究ノート：研究・調査等によって得られた知見をまとめたもので、研究上の有用な資料となるもの。
5. 投稿原稿の掲載は、編集委員会が委嘱した複数の審査員による審査結果に基づき、同委員会において決定する。
6. 投稿原稿以外の原稿については、編集委員会で審査し、必要であれば、投稿者と修正について協議する。
7. 投稿者による校正は初校までとする。
8. 本誌に掲載された論文の著作権(公衆送信権)は日本スポーツとジェンダー学会に帰属するものとする。
9. 本誌の目次および掲載論文等は、原則として「科学技術情報発信・流通総合システム」(J-STAGE)を通じて公開する。ただし、編集委員会が特別の事情を認めた場合は公開しないことがある。なお、本誌はオープンアクセス誌であり、クリエイティブ・コモンズCC BY ライセンスを使用している。

(付記) 編集委員会の事務局は、原則として編集委員長または委員が所属する機関に置くこととし、学会ホームページを通じて会員に周知する。編集委員会事務局のメールアドレスは、edit_board@jssgs.org とする。

以上

『スポーツとジェンダー研究』 投稿規定

2002年10月
2003年7月 改訂
2014年3月 改訂
2014年6月 改訂
2016年6月 改訂
2021年3月 改訂
2022年6月 改訂
2024年7月 改訂
2025年7月 改訂

1. 原稿は、原則として本文を日本語とし、ワードプロセッサで作成したものとする。
 2. 投稿者は、下記の方法で原稿を編集委員会事務局に提出する。審査の公平性を確保するため、審査用の原稿には、氏名、所属、謝辞等、著者を特定することができる情報を記入しない。また、審査用デジタルファイルは、プロパティから個人情報（作成者）を削除する。
 - (1) 原稿のデジタルファイルをメールに添付して提出する（ファイルがメールに添付できないサイズの場合は、編集委員会に相談すること）。
 - (2) 原稿のデジタルファイルは、オリジナル原稿と審査用の2点を提出する。デジタルファイルの形式については、本文はMicrosoft Word および PDF、図表はMicrosoft Excel、写真はjpg または PDF とする。なお、提出にあたり原著論文用・研究ノート用それぞれのチェックリストを確認し提出すること。
 3. 総説および原著論文は、図表なども含めA4判に40字40行で14枚以内、研究ノートはA4判に40字40行で10枚以内とし、それぞれに著者、所属、連絡先、メールアドレス、キーワード3～5語及び300語以内の英文抄録とその日本語訳を添付する。英文については、英語話者（ネイティブ）のチェックを受けるか、もしくは英文専門の翻訳者に依頼することを原則とする。外国文献紹介、書評、学会動向などはA4判に40字40行で原則として10枚以内とする。この分量を超過した場合や特殊な印刷を必要とする場合には、その実費を投稿者が負担する。
 4. 挿入する図表は、直接印刷できる正確で鮮明なものとし、投稿者が、通し番号とタイトル（図は下、表は上）をつけて、該当箇所に貼り付けておく。
 5. 審査用原稿にページ番号（ページ下部中央）および行番号（ページごとに振り直し）を付加する。
 6. 注は一括して論文末に掲げ、本文中の該当箇所の右肩に1）、2）のように挿入する。
 7. 引用文献は、本文の該当箇所に、（執筆者名、発行年[西暦]、引用頁）の形式で示し、外国文献の著者名は、原著では欧文表記、翻訳書ではカタカナ表記とする。

<例> （木村, 1999, p.88）、（Hall, 1996, p.88）、（ホール, 1996, pp.23-24）
（來田・田原, 2001, p.9）、（Fejgin and Hanegby, 2001, pp.45-48）
（熊安ほか, 2001, p.11）、（Fasting et al., 2000, pp.3-8）
- ※引用頁は、読者が引用箇所を参照できるように、可能なかぎり明記してください。
8. 文献一覧は、注一覧の後に著者名のアルファベット順で記載する。著書の場合は、著者名（外国

人の場合も姓を最初にする)、発行年(同年に発行された同じ著者の文献を2冊以上引用する場合には、2002a,2002bのように表記する)、書名、出版社名、発行地の順に、論文の場合は、著者名、発行年、論文名、掲載雑誌名、巻(号):頁の順で示すものとする。

<例> 著書の場合 木村涼子(1999) 学校文化とジェンダー. 勁草書房:東京.

Hall, M.A. (1996) *Feminism and Sporting Body*. Human Kinetics: Canada.

熊安貴美江(2003) 男女いっしょの体育は無理?: スポーツ・身体とジェンダー. 天野正子・木村涼子編. ジェンダーで学ぶ教育. 世界思想社: 京都, pp.139-134.

論文の場合 來田享子(1998) アムステルダム大会への女子陸上競技採用決定直後の

FSFI と IOC の書簡の検討. 体育学研究 43(2): 91-101.

Brackenridge, C. (1997) He owned me basically...: Women's Experience of Sexual Abuse in Sport. *International Review for the Sociology of Sport* 32:115-130.

9. 掲載論文の別刷りを希望する場合は、著者校正時に、必要部数を申し出るものとするが、その費用は投稿者の負担とする。
10. 投稿論文等に係る研究を実施するにあたり、研究を実施した機関の倫理委員会(もしくは、これに準ずる組織)の承認を得ていることが望ましい。承認を得た場合には、その旨を論文に記載する。

以上